東北初 雑種の警察犬

訓練実り審査会で見事合格

県警が嘱託する警察犬に今年、雑種犬「大」（雄・1歳）が選ばれた。雑種犬が警察犬に嘱託されるのは、東北で初めて。18日は、青森警察署で嘱託書の交付式が行われ、育成に携わってきた青森市浪岡のNPO法人北東北捜索犬チームの岩本良二さん(64)は「普通は2年以上かかるが1年で合格。物を探すのが好きな犬で、適性があった」と話した。（石橋治佳）

青森署で嘱託書交付式

飼い主の三上さん「共に社会貢献を」

警察犬の嘱託を受けた「大」と三上さん

県警は年1回の審査会で合格した犬を警察犬に、指導手を務めた人を警察犬の指導手に嘱託している。

大は災害救助犬などの養成に取り組むボランティア団体の同チームに所属し、訓練を受けてきた。飼い主で青森市の介護士三上恵子さん(44)が指導手を務める。県動物愛護センターから引き取ったといい、「犬と何か同じことに取り組みたいと訓練を始めた」と三上さん。仕事が終わった後などの時間も使い、訓練してきた。「社会に貢献できればと思う」と話す。

同チームで訓練を受けたラブラドルレトリバー「ビアンカ オブ ヒロサキ デンエン」（雌・2歳）も嘱託され、指導手で同市の自衛官喜多年也さん(44)は「背伸びせず、少しずつ役に立てれば」と抱負を語った。

同チームの設立後、所属する犬が警察犬に選ばれたのは2頭が初めてといい、岩本さんは「訓練の成果が出てほっとした。引き続き、続けていきたい」と話した。

県内では今年、38頭が警察犬として嘱託を受けている。任期は今月から1年。行方不明者の捜索、犯人の追跡などに協力する。

THE MUTSU SHIMPO
陸奥新報